

〈人材育成カンパにご協力ください〉  
 今8つのコミュニティーの、合計60名の子ども達が、町のハイスクール、カレッジで学んでいます。(一口1,000円)  
 郵便振替:00210-5-72693  
 口座名:ピラーンの医療と自立を支える会



2002年1月20日発行  
 NPO 法人ピラーンの医療と自立を支える会  
 227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11  
 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933  
 E-mail: hands-ty@246.ne.jp  
<http://www.246.ne.jp/~hands-ty/hands.html>

パライソ・コミュニティーにも簡易水道  
 —グリーンカード(医療互助システム)への参加で医療支援も開始—

去る12月10日から8日間、佐々木、山崎がミンダナオを訪ねました。今回はイスラム過激派アブサヤフと国際テロ組織アルカイダの関連が指摘される中での訪問で、今まで以上に慎重に治安確認に当たりました。

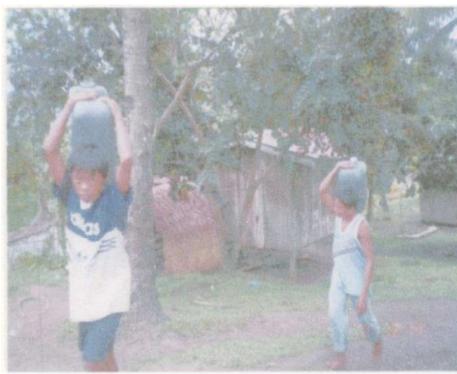
現地は12月半ばともなると、学校は大抵クリスマス休暇に入ります。今回初めて訪ねたパライソでのミーティングにも、終業式をおえたばかりの子ども達が集まってきました。事前に届いた水道支援要請の文書には皮膚病が多いとありました。確かにかなりの子どもの足に疥癬らしき症状が認められます。

〈パライソ・コミュニティーとは〉

山岳部ですが、町のハイスクールへの通学やコーンの出荷に、スカイラブ(ドライバーを含めて最大6名ぐらい乗れる乗合バイク)が利用できるなど、同じピラーン族コミュニティーでも、ラムブソン、アトゥモロック、キアミなどに比べると、交通輸送条件は格段に優れています。問題は水です。現在利用している急斜面を600mほど下った地点の湧き水は量も限られていて、皮膚病を含めて安全な水の不足に起因する病気が多く見られます。健康面だけでなく、環境庁(DENR)サラングニ支所がこの地域で推進する緑化運動においても、乾季の水不足がネックになっていると、緑化推進の婦人部長ヘノビアさんは、移植前のマンゴー苗を見せてくれました。



HANDSの医療支援地域の一部(パライソを含む南部の地域)  
 パライソは、サラングニ州の州都アラベル町から車で1時間足らずの位置にあります。



今は600m山道を下った地点からポリタンクで水を運んでいます。

〈水道が欲しい〉それにはまず水源をと、住民が探し当てた6km離れた谷あいの湧き水は、水量が2.5秒で1ガロン(約3.8リットル)と、370世帯の需要を満たすだけの量があります。水道などインフラ整備は地元政府の責任ですが、受益者が限られている山のコミュニティー共通の問題として、財源難を理由に常に後回しにされます。パライソの場合も、長い間待たされた末のCMB及び当会への支援要請でした。ミーティングにはバランガイキャプテンのラリーさんも参加しました。バランガイは維持管理の経費負担を、年1回の水質検査はアラベル町の衛生局が、さらに住民も長年の夢実現のため、バヤニハン(伝統的地域共同作業)による労力提供を約束しています。交通条件、住民の組織化、地元行政の協力体制などから、水さえ得られれば何とかなる地域との感触を得たので、会としても助成金申請などによりできるだけ協力することにしました。

〈医療支援も〉ミーティングでは、病気予防の最大の決め手であるこの水道建設のほかにも、万一の入院・手術に備えた1日1世帯1ペソ抛出のCMB医療互助システム加入などが話し合われました。

一日1ペソ抛出は、住民が私たちの医薬品・検査・手術経費支援に全面的に頼らない医療自立の第1歩です。今回このグリーンカード参加を決めたことで、パライソも今後、巡回診療を含めた当会医療支援の対象になることが決まりました。

ミンダナオは今年に入ってから、アメリカの軍事顧問団250人が送り込まれるなど緊張が高まっています。テロは貧困だけでなく屈辱感があるという見方もあります。私たちの活動が、間接的に貧困や屈辱感からの解放につながることを願って、今年も一つ一つ、現地の課題に取り組んでいきたいと思ひます。